

群 教 七	G11 - 02
	平 21. 241集

中学校職場体験学習における望ましい 勤労観、職業観の育成を目指した指導の工夫

— 学習プログラムに基づいた

「振り返りシート」の活用を通して —

長期研修員 青木 政明

《研究の概要》

本研究は、中学校職場体験学習に視点を当て、生徒に望ましい勤労観、職業観を育成することを目指したものである。キャリア発達にかかわる諸能力と総合的な学習の時間の探究の過程を関連付けた学習プログラムを作成し、それに基づいた「振り返りシート」を活用した授業実践を行った。これにより、生徒の学習状況に応じた系統的な支援・指導を行い、職場体験学習を充実させ、生徒に望ましい勤労観、職業観を育成することができた。

キーワード 【キャリア教育 中学校 職場体験学習 学習プログラム 「振り返りシート」】

I 主題設定の理由

世界金融危機から端を発した今日の厳しい経済情勢の中、就職・就業をめぐる環境が激変し、雇用システムの多様化・流動化が進行した。求職希望者と求人希望者の不適合が拡大し、求人状況の悪化が問題となっている。若者をめぐっては、精神的・社会的自立の遅延や安易な高学歴指向、モラトリアム傾向の拡大なども問題となっている。

このような状況の中、キャリア教育の充実が強く求められている。『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告（平成16年1月文部科学省）』では、キャリア教育推進のための方策の一つとして、職場体験などの体験活動を充実させることの重要性が述べられた。この職場体験学習はキャリア教育の中核をなし、現代社会の課題改善に向けて有用な学習であると言える。

『中学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省）』では、職場体験学習などの体験活動を積極的に取り入れ、自己の生き方を考える学習を行うことが明記された。群馬県においても『学校教育の指針（平成21年2月群馬県教育委員会）』や『群馬県教育振興基本計画（平成21年3月群馬県）』で望ましい勤労観、職業観を育てるために職場体験学習をより充実させることが示された。

しかし、『中学校職場体験ガイド（平成17年11月文部科学省）』では、職場体験学習が体験のみに終わってしまい、本来の教育的機能を十分に発揮できていない傾向が見られること、職場体験学習の事前、事後の指導の在り方を見直し、生徒に

とってよりよいものとなるよう、充実させていく必要があることが示された。このことは協力校でも同様である。体験活動が一過性のイベントとなってしまうこと、体験活動のみに終始してしまい、学びが少ないことなど課題が多い。

以上のことから、本研究は、これらの社会的・教育的な課題及び職場体験学習の課題解決に向けて、中学校職場体験学習に視点を当て、学習プログラムを作成し、それに基づいた「振り返りシート」を活用した授業実践を通して職場体験学習の充実を図り、生徒に望ましい勤労観、職業観を育成することを目指すものである。

II 研究のねらい

中学校職場体験学習における学習プログラムを作成し、それに基づいて作成した二種類の「振り返りシート」の活用を通して、職場体験学習の充実を図り、生徒に望ましい勤労観、職業観を育成する。

III 研究の見通し

- <見通し1>学習プログラムに基づき、学習事項の関連性を考慮し、学習内容の確実な定着を目指した系統性のある「振り返りシート」を活用した授業を行うことにより、職場体験学習の充実が図られ、望ましい勤労観、職業観が育成されるであろう。
- <見通し2>学習プログラムに基づき、生徒

の多様な実態や学習状況に対応し、個に応じた適切な支援・指導を目指した「振り返りシート」を活用した授業を行うことにより、職場体験学習の充実が図られ、望ましい勤労観、職業観が育成されるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「望ましい勤労観、職業観」について

本研究では、「望ましい勤労観、職業観」を以下のようにとらえることとする。

自己・職業理解を基に、自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考え、その実現に向けての課題を解決しようとする態度。

(2) 本研究における学習プログラムについて

表1に示す本研究における学習プログラムは『職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)(平成14年11月国立教育政策研究所生徒指導センター)』を基に作成したものである。まず、生徒に対してアンケートを実施し、その結果から生徒の実態および指導上の課題を把握する。次に、キャリア発達にかかわる諸能力(4能力領域8能力)と総合的な学習の時間における「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの探究の過程とをかかわらせて、育てたい能力・態度を明確にする。これらを基にして、学習活動を設定し、望ましい勤労観、職業観の育成を目指す。

表1 職場体験学習における勤労観、職業観をばぐむ学習プログラム

総合的な学習の時間 における探究の過程									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">事前指導</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">職場体験</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> ①課題の設定、体験先の選択・決定 ②体験内容の調査 ③社会性・マナーの習得 ④自分を再確認しよう ※研究授業実践Ⅰ ⑤事前訪問 </td> <td style="vertical-align: top;"> ①体験活動、調査活動 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">事後指導</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> ①職場体験発表会 ※研究授業実践Ⅱ ②礼状の作成 ③職場体験を振り返って ※研究授業実践Ⅲ ④職場体験学習のまとめ ※研究授業実践Ⅳ </td> </tr> </table>		事前指導	職場体験	①課題の設定、体験先の選択・決定 ②体験内容の調査 ③社会性・マナーの習得 ④自分を再確認しよう ※研究授業実践Ⅰ ⑤事前訪問	①体験活動、調査活動	事後指導	
事前指導	職場体験								
①課題の設定、体験先の選択・決定 ②体験内容の調査 ③社会性・マナーの習得 ④自分を再確認しよう ※研究授業実践Ⅰ ⑤事前訪問	①体験活動、調査活動								
事後指導									
①職場体験発表会 ※研究授業実践Ⅱ ②礼状の作成 ③職場体験を振り返って ※研究授業実践Ⅲ ④職場体験学習のまとめ ※研究授業実践Ⅳ									
職場体験学習における 主な学習活動		事前指導	職場体験	事後指導					
		①課題の設定、体験先の選択・決定 ②体験内容の調査 ③社会性・マナーの習得 ④自分を再確認しよう ※研究授業実践Ⅰ ⑤事前訪問	①体験活動、調査活動	①職場体験発表会 ※研究授業実践Ⅱ ②礼状の作成 ③職場体験を振り返って ※研究授業実践Ⅲ ④職場体験学習のまとめ ※研究授業実践Ⅳ					
育てたい生徒		育成する具体的な能力・態度							
人間関係形成能力	○他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む生徒。	自他の理解能力 コミュニケーション能力	自分のよさや個性を理解する。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅰ その場に応じたコミュニケーションの必要性を考え、コミュニケーションスキルを習得する。	自分のよさや個性が職業に役立つことを知り、自己の新たな可能性を見いだす。 習得したコミュニケーションスキルを活用し、社会人としての基本的マナーや言葉遣いなどを身に付ける。					
	○学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす生徒。	情報収集・探索能力 職業理解能力	職業に関する様々な情報を収集する。 職業について理解することができる。	職業に関する様々な情報を収集し、働くことの意義や役割の理解を深め、働く人の思いを感じる。 職業に関する理解を深め、働くことの意義を考える。	自分のよさや個性についての認識を深め、他者のよさや感情を尊重する。 習得したコミュニケーションスキルを基にして、豊かな人間関係を築く。 収集した職業に関する様々な情報を基に、働くことの意義や役割の理解を深め、自己の進路や生き方を考える。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅱ・研究授業実践Ⅲ 職業に関する理解と働くことの意義を基に、今、自分がしなければならないことを考える。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅳ				
将来設計能力	○夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する生徒。	役割把握・認識能力 計画実行能力		仕事上の役割を体験的に理解し、自分の果たすべき役割を認識する。 自己の進路を考え、その実現のための進路計画を立てる。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅲ・研究授業実践Ⅳ					
	○自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題解決に積極的に取り組み、克服する生徒。	選択能力 課題解決能力	自己の将来や自己の適性、興味・関心と関連付けて体験先を選択・決定する。	選択した体験先が自己の適性、興味・関心に適合したものを考える。 進路に関する自己の課題を見いだす。	自己の個性や興味・関心を生かした進路を選択しようとする。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅳ 希望する進路の実現に向けて自らの課題を見だし、解決していこうとする。 ※「振り返りシート」を活用した研究授業実践Ⅳ				

(3) 「振り返りシート」について

学習プログラムに基づき作成したワークシートが「振り返りシート」である。「振り返りシート（基礎編）」（以下＜基礎シート＞とする）と「振り返りシート（補充・発展編）」（以下＜補充・発展シート＞とする）の二種類を作成し、活用した授業実践を行う。

○ ＜基礎シート＞について

職場体験学習における各時間の学習事項にはそれぞれつながりがあり、これらの学習事項を相互に関連させて習得することで単元のねらいに到達することとなる。また、これらの学習事項で育てたい能力・態度にも関連性があり、学習を積み重ねることにより能力・態度を高めていくこととなる。そこで、＜基礎シート＞は各時間での学習事項についての関連性を考慮した系統性のあるもの

とする。これにより、学習内容の確実な定着を図り、身に付けさせたい諸能力を高めることを目指す。

○ ＜補充・発展シート＞について

職場体験学習では生徒の多様な実態や学習に対する様々な到達度の状況に対しても対応していくことが必要となる。そこで＜補充・発展シート＞は生徒一人一人の進路に関する実態及び学習状況に応じたものとする。これにより、個に応じた適切な支援・指導を行い、＜基礎シート＞での学習を補充・発展させ、達成状況が不十分な生徒の学習を支援するとともに到達状況が十分な生徒の学習をより発展させ、すべての生徒が学習目標に到達することを目指す。図1は、「振り返りシート」の系統性と個への支援を示したものである。

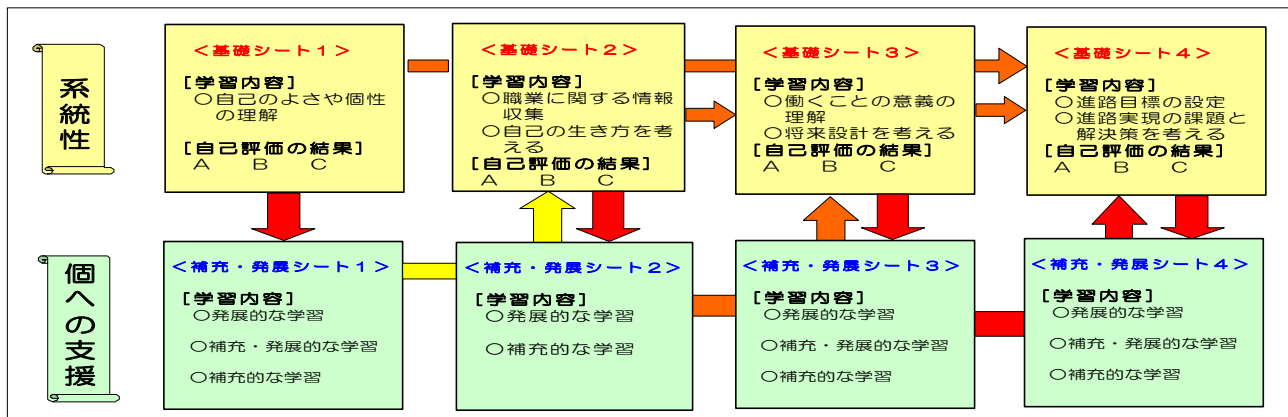
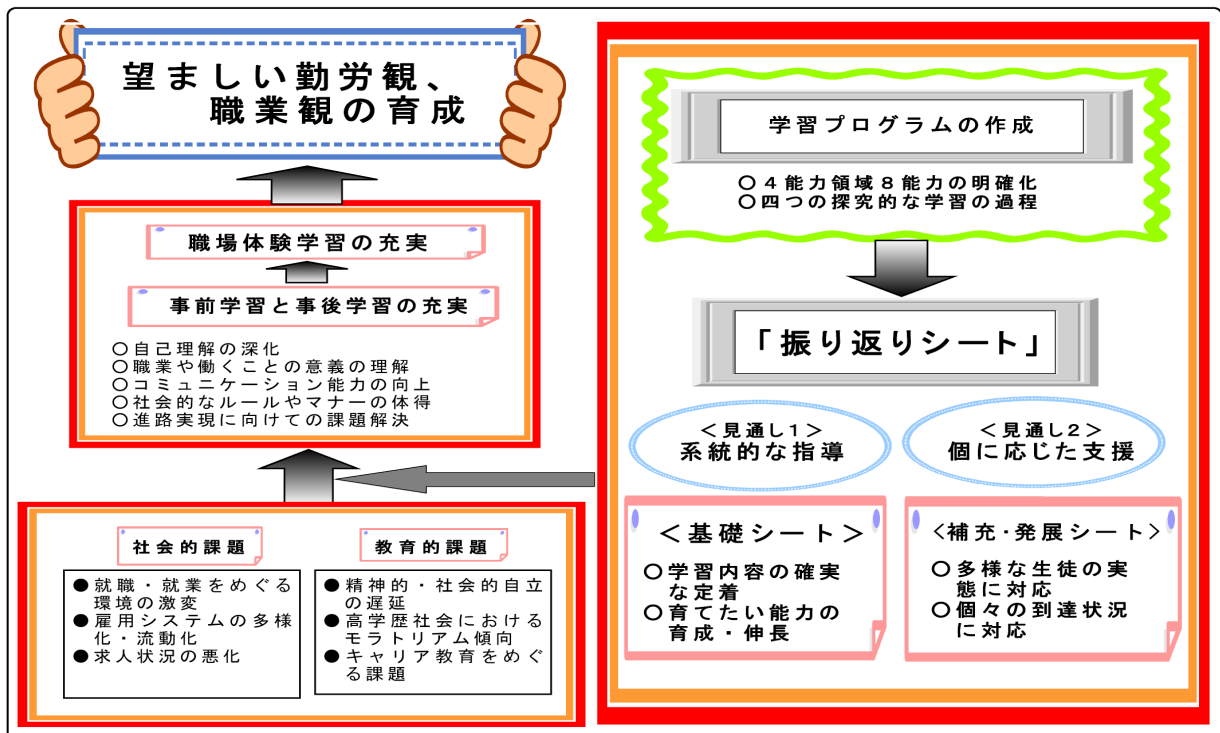


図1 「振り返りシート」の系統性及び個への支援

2 研究構想図



3 検証計画

研究仮説	検証の観点	検証の方法	処理・解釈
学習プログラムに基づいて作成した「振り返りシート」を活用した授業を行うことにより、学習内容の確実な定着や個に応じた適切な支援・指導が図られ、職場体験学習が充実し、望ましい勤労観、職業観が育成されるであろう。	職場体験学習の事前指導と事後指導において、「振り返りシート」を活用したことの有効性について、以下の観点から検証する。 ○ 観点1：自己の個性や興味・関心を生かした進路やこれからの生き方を考えられたか。 ○ 観点2：収集した職業に関する情報を基に自己の進路を考えられたか。 ○ 観点3：希望する進路の実現に向けての課題を解決しようとする態度が身に付いたか。	○ アンケートの結果（観点3） ○ <基礎シート>への自由記述（観点1・2・3） ○ <基礎シート>及び<補充・発展シート>への自己評価（観点1・2・3）	○ 手だての投入前後における生徒の変容の確認 ○ <基礎シート>への記述内容の分析 ○ <基礎シート>の自己評価の結果と<補充・発展シート>の自己評価の結果の比較分析

V 研究授業実践

1 研究授業実践の概要

対象	研究協力校 中学校第2学年43名
実践期間	平成21年7月16日～10月1日 8時間（80分授業×4回）
単元名	「職場体験学習」（総合的な学習の時間）
単元の目標	○学ぶことや働くことの意義及び自己や事業所に対する理解を深め、職業に関する知識や技術、社会的なルールやマナー、コミュニケーション能力を身に付ける。 ○自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考え、その実現に向けての課題を解決しようとする態度を身に付ける。

2 単元の指導計画

過程	主な学習活動	評価項目【4能力領域8能力】
課題設定 情報収集	「職場体験学習の意義とねらいを考えよう」 ○職場体験学習の目的について話し合い、個人の学習目標を考える。 ○体験先希望調査を基にして体験先を決定する。	○自分のよさや個性を理解している。【自他の理解能力】 ○自分の個性やよさを生かした体験先の選択、決定をしている。【選択能力】
	「事前調査をしよう」 ○事業所ごとに集まり組織づくりを行う。 ○職場体験の事前の調査を行う。	○体験先に関する様々な情報を収集し、知識を得ている。【情報収集・探索能力】【職業理解能力】
整理・分析 まとめ・表現	「ルールやマナーを身に付けよう」 ○電話対応マニュアルと職場訪問マニュアルを活用し、その場に応じたルールやマナーを身に付ける。 ○電話で事前訪問の打合せを行う。 ○職場体験当日の質問事項の検討を行う。	○その場に応じたコミュニケーションスキルを習得している。【コミュニケーション能力】
	<基礎シート1> <補充・発展シート1>	
課題設定	「自分を再確認しよう」（研究授業実践Ⅰ） ○「自分から見た自分」や「友達から見た自分」を基にして自分のよさを再確認する。 ○自己紹介カードを作成する。	○自分のよさや個性を理解しようとするとともに友達のよさを考え、尊重しようとしている。【自他の理解能力】
	事前訪問を行う。（夏季休業中に実施） 職場体験当日の注意事項の確認を行う。（体験学習前日 帰りの会で）	
情報収集 整理・分析	「職場での体験活動をしよう」 ○各事業所において職場体験を行う。	
	評価項目【4能力領域8能力】 ○自分のよさや個性が仕事に役立つことを知り、自己の新たな可能性を見いだしている。【自他の理解能力】 ○習得したコミュニケーションスキルを活用し、社会人としての基本的マナーや言葉遣いなどを身に付けている。【コミュニケーション能力】 ○職場体験を通して職業に関する様々な情報を収集し、働く人々の様々な思いを感じている。【情報収集・探索能力】 ○職場体験を通じて職業に関する理解を深め、働くことの意義を考えている。【職業理解能力】	

整理・分析	<p>○仕事上の役割や意義を体験的に理解し、自分の果たすべき役割を考えている。【役割把握・認識能力】</p> <p>○選択した体験先が自己の適性、興味・関心に適合したものかを考えている。【選択能力】</p> <p>○進路に関する自己の課題を見いだしている。【課題解決能力】</p>
	<p>職場体験で学んだことを整理し、発表会に備える。(職場体験終了後)</p> <p>○職場体験の学習成果を伝え合うことで、進路や職業に関する様々な情報を得るとともに、それらを活用して自己の生き方を考えている。【情報収集・探索能力】</p>
	<p>「お礼状を作成しよう」</p> <p>○礼状を作成する上での注意事項を話し合う。</p> <p>○礼状の作成をする。</p> <p>○職場体験を通して習得したコミュニケーションに関する知識・技能を基にして、お礼状を作成している。【コミュニケーション能力】</p>
	<p>「職場体験学習を振り返って」(研究授業実践Ⅲ)</p> <p>○職場体験を振り返り、まとめる。</p> <p>○働くことについての自分の考えをまとめ、働くことの意義を考える。</p> <p>○職場体験を振り返り、学んだことや感じたことをまとめ、話し合うことで、働くことの意義を考え、これからの進路について考えている。【職業理解能力】</p> <p>【情報収集・探索能力】</p>
まとめ・表現	<p>「職場体験学習のまとめ」(研究授業実践Ⅳ)</p> <p>○職場体験から学び得たことと将来の進路を関連させてこれからの生き方を考えさせる。</p> <p>○進路目標を設定する。</p> <p>○実現に向けての課題とその解決策を考える。</p> <p>○努力目標を設定する。</p> <p>○自己のよさや個性についての認識を深め、興味・関心を生かした進路目標を設定している。【選択能力】【自他の理解能力】</p> <p>○設定した進路目標の実現に向けての課題を考え、進路実現に向けての計画を考えている。【計画実行能力】</p> <p>【課題解決能力】</p>
課題設定	

3 研究授業実践における「振り返りシート」の活用の概要

- ◎：十分満足できる状況の生徒の学習活動
- ：おおむね満足できる状況の生徒の学習活動
- ：おおむね満足に至らなかった生徒の学習活動

実践	「振り返りシート」											
	<基礎シート>	<補充・発展シート>										
研究授業実践Ⅰ「自分を再確認しよう」	<p style="text-align: center;"><基礎シート1></p> <p>☆ 本日の学習目標</p> <p>提示された学習内容を基に自分の言葉で表現させる。</p> <p>☆ 自分のよさを再確認しよう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容・観点</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活</td> <td>礼儀正しい・・・ 心や体の健康・・・ 自分で考え積極的に・・・</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">自分のよさや個性を3分野18項目から再確認する。</td> </tr> <tr> <td>学習</td> <td>学習内容に興味をもち・・・ 集中して学習に・・・</td> </tr> <tr> <td>部活</td> <td>休まず参加・・・ 他の部員と協力して・・・</td> </tr> </tbody> </table> <p>☆ 友達の良いところを考え、「がんばりカード」に記入しよう。</p> <p>☆ 「自己紹介カード」に記入しよう。</p> <p>☆ 自己評価 友達から見た自分のよさを伝え合う。</p> <p>◎ 自分のよさや個性を再確認できたか</p> <p>◎ 友達のよさや個性を確認できたか</p> <p>「自己理解が深まったか」について自己評価する。</p>	項目	内容・観点	評価	生活	礼儀正しい・・・ 心や体の健康・・・ 自分で考え積極的に・・・	自分のよさや個性を3分野18項目から再確認する。	学習	学習内容に興味をもち・・・ 集中して学習に・・・	部活	休まず参加・・・ 他の部員と協力して・・・	<p style="text-align: center;"><補充・発展シート1></p> <p>☆ 自分のよさや個性を生かせる仕事にはどんな仕事があるのか、考えよう。</p> <p>◎ 自分のよさや個性を生かした仕事について考える学習を行う。</p> <p>☆ <基礎シート1>や「がんばりカード」を基に、自分のよさや個性について、もう一度確認しよう。</p> <p>□ 自分のよさや個性について、もう一度考える学習を行う。</p> <p>☆ 自分のよさについて友達に、もう一度書いてもらおう。</p> <p>● 自分のよさや個性について、もう一度友達に聞き、考える学習を行う。</p> <p>☆ 自己評価</p> <p>◎ 自分のよさや個性を生かした職業を考えられたか</p> <p>◎ 自分のよさや個性を再確認できたか</p> <p>再度、自己評価する。</p>
項目	内容・観点	評価										
生活	礼儀正しい・・・ 心や体の健康・・・ 自分で考え積極的に・・・	自分のよさや個性を3分野18項目から再確認する。										
学習	学習内容に興味をもち・・・ 集中して学習に・・・											
部活	休まず参加・・・ 他の部員と協力して・・・											

<基礎シート2>

☆ 本日の学習目標

提示された学習内容を基に自分の言葉で表現させる。

☆ 発表会を聞いて、自分が興味をもった仕事についてまとめよう。

職場体験発表会を聞き、職業に関する情報を収集する学習を行う。

☆ 発表を聞いて分かったこと、感じたことをまとめよう。

これからの自分の進路に生かせることやこれからの生活で心がけていきたいことを考える学習を行う。

☆ 職場体験を通して学んだことを自分の進路や生き方に生かすために話し合おう。

- ・自分の進路に生かせること
- ・これからの生活で心がけていきたいこと

☆ 自己評価

◎ 進路や職業に関する情報が得られたか

「職業に関する情報を収集できたか」について自己評価する。

<補充・発展シート2>

☆ 職場で働いた経験や発表会で知ったことを基にしてこれからの生活目標を考えよう。

◎ これからの生活目標を考える学習を行う。

☆ 自己評価

◎ これからの生き方を考えられたか。

再度、自己評価する。

☆ 発表会で聞いた中から自分が最も興味をもった事業所について、もう一度、発表者に聞いて、情報を整理しよう。

・仕事内容

・必要な資格

□・● 自分が興味をもった事業所について、もう一度、発表者から聞き、まとめる学習を行う。

・適性

☆ 自己評価

◎ 職業についての情報が得られたか。

再度、自己評価する。

<基礎シート3>

☆ 本日の学習目標

提示された学習内容を基に自分の言葉で表現させる。

☆ 職場での体験活動を振り返って、学んだことや感じたことについて自分と友達の考えをまとめよう。

職場での体験活動を振り返り、4能力領域8能力とかがわらせてまとめる学習を行う。

☆ なぜ、人は働くのだろうか。働くことの意義について考え、話し合おう。

- ◎ 自分の考え
- ◎ 話し合いで出された意見

働くことの意義について考え、話し合う学習を行う。

☆ 職場体験で学んだことを基に、自分の進路実現に向けて必要なことは何かを考えよう。

進路実現に向けて必要なことは何かを考える活動を行う。

☆ 自己評価

◎ 職場体験を振り返り、学んだことや感じたことをまとめることができたか

◎ 働くことの意義を考えられたか。

「働く意義を考えられたか」について自己評価する。

<補充・発展シート3>

☆ あなたは将来、何のために働くのだろうか。

◎ 自分はなぜ働くのかを考える学習を行う。

☆ なぜ、人は働くのか。働く理由を身近な人にインタビューし、自分の考えをまとめよう。

□ 人はなぜ働くのかを身近な人に聞き、それに対する自分の考えをまとめる学習を行う。

☆ なぜ、人は働くのか。働く理由を身近な人に聞き、観点別にまとめよう。

● 人はなぜ働くのかを身近な人に聞き、まとめる学習を行う。

☆ 自己評価

◎ 働くことの意義を考えられたか。

再度、自己評価する。

<基礎シート4>

☆ 本日の学習目標

提示された学習内容を基に自分の言葉で表現させる。

☆ 進路実現に向けて必要なことや進路を実現するために解決しなくてはならない課題は何か。

進路目標の実現に向けての課題を考える学習を行う。

☆ 進路実現に向けての課題を解決する方法について話し合おう。

進路実現に向けての課題とその解決方法について考え、話し合う学習を行う。

☆ 進路目標を実現するための努力目標を考えよう。

進路実現に向けての努力目標を考える学習を行う。

☆ 「進路実現カード」に記入しよう。

「進路実現カード」に進路目標と月別の努力目標を記入する学習を行う。

☆ 自己評価

- ◎ 希望する進路の実現に向けての課題とその解決策を考えられたか。
- ◎ 希望する進路を実現するための努力目標が考えられたか。

「進路目標や努力目標を考えられたか」について自己評価する。

<補充・発展シート4>

☆ 進路目標を実現するためにはどうしたらよいか、考えよう。

- ・進路目標
- ・実現のための高校選び
- ・高校卒業後の進路

◎ 進路目標を実現するためにはどうしたらよいかを考える学習を行う。

☆ 進路実現に向けて課題と解決策を考え、もう一度、努力目標を考えよう。

- ・課題
- ・解決策
- ・努力目標

□ 進路実現に向けての課題とその解決策を考え、もう一度努力目標を考える学習を行う。

☆ 希望する進路の実現に向けて、中学校卒業後の将来設計について考えよう。

● 中学校卒業後の将来設計を考える学習を行う。

☆ 自己評価

- ◎ 希望する進路の実現に向けての課題とその解決策を考えられたか。
- ◎ 希望する進路を実現するための努力目標が考えられたか。

再度、自己評価する。

Ⅵ 結果と考察

1 学習事項の関連性を考慮した系統性のある「振り返りシート」を活用した授業を行ったことは、学習内容の確実な定着を図り、望ましい勤労観、職業観を育成する上で有効だったか(見通し1)

アンケートの結果と<基礎シート>への自由記述を基に分析した。

○ 自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考えられたか(検証の観点1)

生徒の記述内容を分析すると、これまでの系統的な学習を通して得られた知識を生かして、これからの自分の進路や生き方について考えている記述が多く見られた。このことから、系統的な指導が自己の興味・関心を生かした進路や生き方を考えることにつながったものと考えられる。

<基礎シート4>への生徒の記述

- 自分の個性やその仕事に必要な資格や適性が分かり、これからの進路のことを話し合い、考えられて良かった。
- 職場体験についてまとめる中で改めて自分の個性や適性、進路実現に向けてなど、いろいろなことを考えることができました。これからの進路についての考えを、より深めていければいいと思いました。

○ 収集した職業に関する情報を基に自己の進路を考えられたか(検証の観点2)

生徒の記述内容を分析すると、<基礎シート1>で認識した自己理解と<基礎シート2>で習得した職業理解を総合して、これからの自己の進路について考えている記述が<基礎シート4>で多く見られた。このことから収集した職業に関する情報を基にして生徒は自己の進路について考えているものと考えられる。

<基礎シート4>への生徒の記述

- この学習でいろいろなことを学び感じることができました。人はなぜ働くのかの意味を考えたり、自分の進路について考えたり、仕事の大変さなども分かりました。
- 職業についての知識が深まり、これからの進路選択に役立ちました。自分の個性や職業の適性について考えることもできました。自分の進路について深く考え、それを実現するための努力目標を立てることができました。

○ 希望する進路の実現に向けての課題を解決しようとする態度が身に付いたか(検証の観点3)

「かなり育った」「やや育った」と回答した生徒の割合の合計は次頁図2で示すように86.4%から91.9%に増加した。

生徒は<基礎シート2>を用いて職場体験で学び得たことの中で自分の進路に生かせることは何

かを考えた。これと関連させて<基礎シート3>を用いて進路実現に向けての課題や必要なことを考える学習活動を行った。さらに<基礎シート4>を用いて進路目標とそれを実現するための努力目標を設定し、毎日の中学校生活において何のように取り組むことが進路実現につながるのかを具体的に考えた。これらの系統的な学習活動が、進路実現に向けての課題の解決策や努力目標を考えることにつながったものとする。

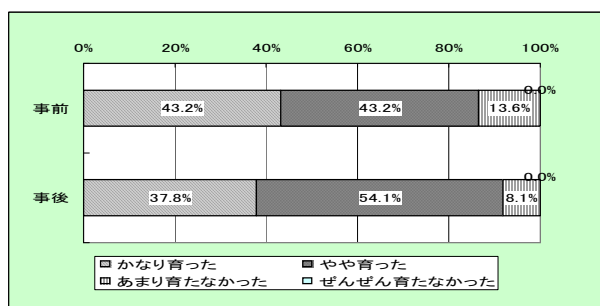


図2 夢や希望を実現しようとする態度が育ったか。

2 生徒の多様な実態や学習状況に対応した「振り返りシート」を活用したことは、生徒一人一人に応じた適切な支援・指導を図り、望ましい勤労観、職業観を育成する上で有効だったか(見通し2)

<基礎シート>の自己評価で「かなりできた」「ややできた」「あまりできなかった」「ぜんぜんできなかった」と回答したそれぞれの生徒が「補充・発展シート」でどのように変化したかについて分析した。

○ 自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考えられたか(検証の観点1)

図3で示すように、<基礎シート1>で「自己に対する理解を深めることができたか」に対して「かなりできた」と自己評価した19.0%の生徒に<補充・発展シート1>を用いた学習を行った。その結果、「自分のよさや個性を生かした職業を考えられたか」について「かなり考えられた」「やや考えられた」と自己評価した生徒の割合の合計は図4で示すように87.5%であった。

以上のことから、<基礎シート1>で習得した自己の個性やよさを基にして、<補充・発展シート1>を用いた学習を行った結果、職業の特色と自己の適性について考えさせる発展的な学習活動を行ったことが、自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考えることにつながったものとする。

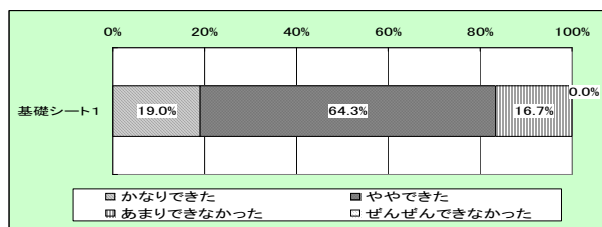


図3 自己に対する理解を深めることができたか。

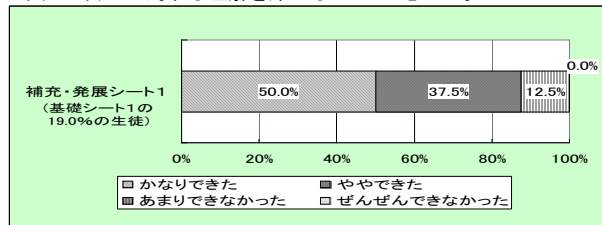


図4 自分のよさや個性を生かした職業を考えることができたか。
注：<基礎シート1>で「かなりできた」と自己評価した19.0%の生徒に対して<補充・発展シート1>を行った結果を示した。

○ 収集した職業に関する情報を基に自己の進路を考えられたか(検証の観点2)

「かなり得られた」「やや得られた」と自己評価した生徒の割合の合計は図5で示すように92.6%であった。生徒は<基礎シート2>を用いて職場体験発表会を行い、進路や職業に関する情報を収集する学習活動を行った。これにより学び得た職業情報に関する学習状況に応じて<補充・発展シート2>を用いた学習を行った。

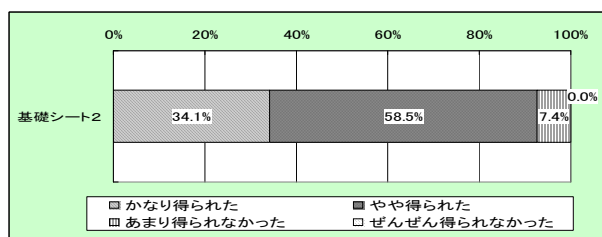


図5 進路や職業に関する情報が得られたか。

<基礎シート2>で「かなり得られた」と自己評価した34.1%の生徒と「やや得られた」と自己評価した生徒58.5%の生徒それぞれに対して<補充・発展シート2>を用いてこれからの生活目標や生き方を考える学習活動を行った。その結果、<基礎シート2>で「かなり得られた」と自己評価した生徒の割合は、次頁図6で示すように「かなり考えられた」「やや考えられた」を合わせて100.0%に達した。また、<基礎シート2>で「やや得られた」と自己評価した生徒の割合は、次頁図7で示すように<補充・発展シート2>を用いた学習により「かなり考えられた」「やや考えられた」を合わせて91.7%であった。これらのことから、<補充・発展シート2>を用いて、さらに発展的に探究させた結果、多くの生徒がより高次の学習内容を習得したものとする。

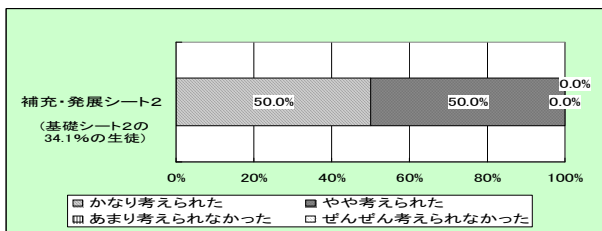


図6 これからの生活目標や生き方を考えられたか。
注：＜基礎シート2＞で「かなり得られた」と自己評価した34.1%の生徒に対して＜補充・発展シート2＞を行った結果を示した。

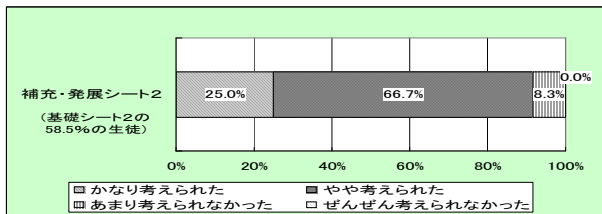


図7 これからの生活目標や生き方を考えられたか。
注：＜基礎シート2＞で「やや得られた」と自己評価した58.5%の生徒に対して＜補充・発展シート2＞を行った結果を示した。

＜基礎シート2＞で「あまり得られなかった」と回答した7.4%の生徒に対して＜補充・発展シート2＞を用いて、もう一度進路や職業に関する情報を収集する学習活動を行った。その結果、「かなり得られた」「やや得られた」と自己評価した生徒の割合は図8で示すように100.0%に達した。このことから、学習状況が不十分な生徒に対して、もう一度進路や職業に関する情報を収集する学習活動を行ったことが、学習内容の確実な定着につながったものと考えられる。

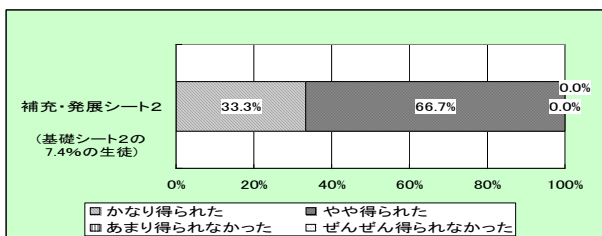


図8 進路や職業に関する情報が得られたか。
注：＜基礎シート2＞で「あまり得られなかった」と自己評価した7.4%の生徒に対して＜補充・発展シート2＞を行った結果を示した。

以上のことから、生徒一人一人の進路や職業に関する情報の収集状況に応じて＜補充・発展シート2＞を用いたことが進路や職業に関する情報を得ることにつながったものと考えられる。

○ 希望する進路の実現に向けての課題を解決しようとする態度が身に付いたか(検証の観点3)
「かなり身に付いた」「やや身に付いた」と自己評価した生徒の割合の合計は、図9で示すように92.5%であった。生徒は＜基礎シート4＞を用いて進路実現に向けての課題とその解決策について話し合う学習活動を行った。その学習状況に応じて＜補充・発展シート4＞を用いた学習を行った。

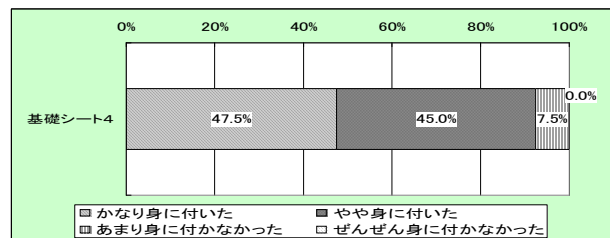


図9 希望する進路の実現に向けての課題を解決しようとする態度が身に付いたか。

＜基礎シート4＞で「かなり身に付いた」と自己評価した47.5%の生徒に対して、＜補充・発展シート4＞を用いた学習を行った結果、「かなり身に付いた」と自己評価した生徒の割合の合計は図10で示すように100.0%に達した。このことから、＜基礎シート4＞で考えた進路目標を基に、生徒は＜補充・発展シート4＞を用いて、進路目標を実現するためにはどうしたらよいかを考えたことが進路実現に向けての努力目標を考えることにつながったものと考えられる。

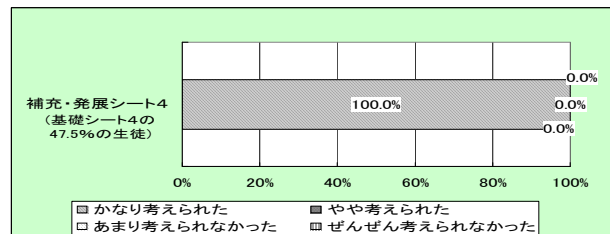


図10 進路実現に向けての努力目標が考えられたか。
注：＜基礎シート4＞で「かなり身に付いた」と自己評価した47.5%の生徒に対して＜補充・発展シート4＞を行った結果を示した。

＜基礎シート4＞で「やや身に付いた」と自己評価した45.0%の生徒に対して、＜補充・発展シート4＞を用いた学習を行った結果、「かなり身に付いた」「やや身に付いた」と自己評価した生徒の割合の合計は図11で示すように100.0%に達した。このことから、＜基礎シート4＞で考えた進路目標を基に、＜補充・発展シート4＞を用いて、その進路目標に向けての課題とその解決策を考え、もう一度努力目標を考える学習活動を行ったことが進路実現に向けての努力目標を考えることにつながったものと考えられる。

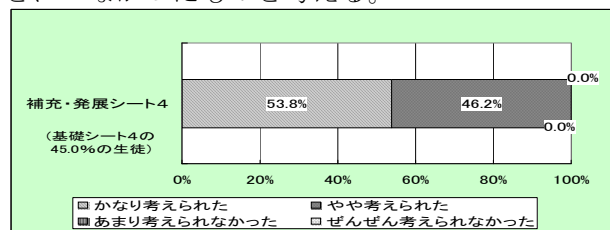


図11 進路実現に向けての努力目標が考えられたか。
注：＜基礎シート4＞で「やや身に付いた」と自己評価した45.0%の生徒に対して＜補充・発展シート4＞を行った結果を示した。

＜基礎シート4＞で「あまり身に付かなかった」と自己評価した7.5%の生徒に対して、＜補充・発展シート4＞を用いた学習を行った。

学習状況が十分ではない生徒に対して<補充・発展シート4>を用いた学習を行ったことにより、具体的に将来の進路設計を考え、その実現に向けての努力目標を考えることにつながったものとする。以下は<補充・発展シート4>への記述である。

<補充・発展シート4>への記述

- 進路設計：中学卒業後、商業高校に進学し、将来は販売員になりたいです。努力目標：勉強をがんばる。
- 進路設計：中学卒業後、A工業高校に進学し、工事関係の仕事に就きたいです。努力目標：しっかり勉強して、知識を付ける。
- 進路設計：中学卒業後、普通科の高校から大学へ進学。プログラマーになりたいです。努力目標：大学に行けるように勉強をがんばる。

以上のことから、生徒一人一人の学習状況に応じて<補充・発展シート4>を用いた学習を行ったことが希望する進路の実現に向けての課題を解決しようとする事につながったものとする。

Ⅶ 成果と課題

1 研究の成果

中学校職場体験学習は職場での体験活動に重点がおかれ、本来の教育機能を十分に発揮できていない傾向があるなど課題が多いことは前述したとおりである。そのため、事前指導から事後指導に至るまでの職場体験学習全体を充実させることが必要であると強く感じていた。望ましい勤労観、職業観を育成することは職場での体験活動だけでは困難であるからである。本研究では、まず、職場体験学習についてのアンケートにより実態を把握した。これにより生徒及び指導上の課題を明らかにすることができた。次に、この課題を解決し、職場体験学習において生徒に身に付けさせたい能力・態度をキャリア発達にかかわる4能力領域8能力と関連させて位置付けることの必要性から、学習プログラムを作成した。これにより、職場体験学習の事前指導、職場での体験活動、事後指導のそれぞれの段階や職場体験学習の各時間の学習活動で、どのような能力・態度を育成することを目指すのかをキャリア発達にかかわる4能力領域8能力に具体的に示すことができた。また、この学習プログラムは総合的な学習の時間の四つの探究の過程との関連付けを図ったものとしたことにより、職場体験学習の各時間の学習活動が総合的な学習の時間の「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの探究の過程の中のどこに位置付けられ、どのような能力・態

度の育成を目指す過程なのかが明確となり、それに基づいた職場体験学習の各時間の学習目標や学習内容を設定することができた。

次に、設定した学習目標に対して、すべての生徒が到達できるような手だてを講じる必要性から二種類の「振り返りシート」を作成し、その活用を行った。職場体験学習では生徒の多様な実態や学習に対する様々な到達度の状況に対応していくことが必要であると考えたからである。<基礎シート>は学習内容の系統性を考慮したものとし、その活用により、学習内容の確実な定着が図られ、身に付けさせたい諸能力を高めることができた。<補充・発展シート>は個に応じた支援・指導を行うものとし、その活用により、達成状況が不十分な生徒の学習を支援したり、到達状況が十分な生徒の学習をより発展させたりすることができた。これらの「振り返りシート」を活用した授業実践により、生徒は自己理解や職業理解を深め、自己の個性や興味・関心を生かした進路選択やこれからの生き方を考え、進路実現に向けての課題を解決しようとする意識を高めることができた。

2 研究の課題

多くの生徒にとってより有効であり、どの中学校でも活用することができるより汎用性の高い「振り返りシート」へと改善していきたい。また、職場体験学習を中核に位置付けた中学校三年間にわたる系統的なキャリア教育を構想し、生徒のキャリア発達を段階的に促進するための研究を継続していきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省 『中学校職場体験ガイド』(2005)
- ・三村 隆男 著 『キャリア教育入門』 実業之日本社(2004)